

一般社団法人

## 日本映像民俗学の会 第36回大会

一般社団法人日本映像民俗学の会

日本映像民俗学の会は、映像作家、映像に関心を持つ民俗学者、あるいは民俗誌映像を見る運動を進めている人たちで、構成される一般社団法人ですが、映像と民俗学の結び得る方法と理論を模索しながら、できるだけ開催地界限の人たちに民俗映像に関する理解と共感を広める運動体としても活動も重視してきました。毎年年会を開き、今回は千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で第36回歴史博大会を開きます。この期間、歴史博では、私ども映像民俗学の会が共催する「映像民俗学の先駆者たち—渋谷敬三と宮本馨太郎」展が開催され、会員の多くが発表します。

今回は、国立歴史民俗博物館内田順子（会員）さん、成田山ぶらり歴史散歩、宿泊・懇親会などを、中島誠二さん（会員）のお手数をわずらわせました。

大会では、特集「映像に見る千葉の民俗と宗教」をおこないます。

尚、会員の作品を募集しています。10月18日までに電話かメールでお申し出ください。尚、参加申し込み、及び成田宿泊の希望者は21日（月）までに電話・メールでお願いいたします。参加者は一般者、非会員も参加できます。

**主催：一般社団法人 日本映像民俗学の会**

**後援：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構**

**国立歴史民俗博物館**

**成田市教育委員会**

## ●日程

### 11月15日(金)

13:00(成田駅集合)～17:00 終了 (15,6名予定)

成田山ぶらり歴史散歩

成田山新勝寺、成田山霊光館(博物館)、街並みなどを見学。

霊光館学芸員の方に案内をお願いしております。

### 11月16日(土)

10:00～12:00 特集「映像に見る千葉の民俗と宗教」2本上映

『房総の出羽三山信仰』(60分)

講演・解説:島立理子(千葉県立中央博物館 主任上席研究員)

『安房のみのご踊り』(27分)

中島誠二(シマワークス、会員)

12:15～13:00 「昼休み」

11月16日(土) 13:00～16:30

## 「会員・研究者の映像作品特集」

### ●『jo joko』(61分) 分藤大翼(信大) 制作年 2012年

スタッフ名 監督/撮影/編集:分藤大翼

狩猟採集という生き方=食べ方。身のまわりの自然から、その日に食べるものを手に入れて、分けあって食べる。中部アフリカの熱帯雨林には、人類のもっとも基本的な文化を受け継ぐBaka(バカ)という人々が暮らしている。

彼らの言葉では「食べ物」のことをjo(ジョ)、なんであれ「良い」ことをjoko(ジョコ)と言う。本作は、森に生きる人々の食事の様子を、ただそれだけを描こうとした人類学的アクション映画である。

### ●『タクスウ ～魂の踊り子～』(58分) 仁田美帆(多摩美大) 2011年

2010年に86歳で逝去したバリ島最高の舞踊家ニ・クトウット・チュニックの晩年に着目し、その魂を描き出したドキュメンタリー。

### ●『アフター・ザ・コーブ』(25分) 臼田乃利子

このドキュメンタリーは三部構成になっています。一部が、和歌山県太地町を舞台にしたもので、皆さんのご意見を伺いたい作品。「コーブ」上映後から太地に通り詰

め、様々な角度から、この問題を見つめようとなりました。(今回は第一部を上映します)

第二部は「近代捕鯨の惨禍」で、ノルウェイや日本の八戸で、千人以上の漁師たちが捕鯨解体所を焼き打ちするという、歴史教科書に書いていない部分を強調しています。昨年まで、南氷洋でシーシェパードと揉めていた調査捕鯨の団長とのインタビューを、ここでどのように仕上げるか、現在思索中です。

第三部が「捕鯨文化の深層へ」で、いかに、くじらの食文化が作られたのか、30年前の資料をもとに、東北大学の石井敦准教授にお話を伺いながら、文化でさえ資本の一部にすぎない、現在の状況を問題提起しています。

### ●新日本紀行ふたたび『大ろうそくの灯る日～岐阜県飛騨市古川町～』

(25分) 川島和雄

岐阜県の飛騨市古川町。ここでは、毎年1月15日の小正月、親鸞上人の報恩講である「三寺まいり」が行われる。およそ2百年も続けられてきたこの「三寺まいり」は、町に住む人々の信仰心が育んできたものだ。

別名「徹夜まいり」とも呼ばれるこの講では、昔から夜を徹して、巨大和ろうそくが灯されてきた。そのろうそく作りは、いまでも続けられている。

ロウソク職人七代目の三嶋順二さん、左官職人の鮎飛さん、絵馬絵師の山口さん、「三寺まいり」を軸に、それぞれの思いを込めて飛騨古川町で生きる人々の姿を描く。

### ●『山上の年越し・松例祭』(30分) 長嶋節五

羽黒山山上で行われる年越しの松例祭は古くからの行事のようで、時代の変遷とともに様々な要素を重層して来た。かつては精進潔斎参籠をして神意を得ようと、霊の寄り来るのを待つ修験行者の儀礼の一つであった。そこえ芸能などの娯楽的な要素なども加え、手向の民衆を巻き込んで行われてきた。幕藩体制の崩壊による体制の交代により中断されたが、麓の黄金堂で復活、その後まもなくして、明治の体制の意向により神道色に装いされ現在まで盛大に行われている。

16:45～17:00      ～報告と来年の方針～  
成田山宿泊

19:00～21:00      懇親会 (成田)

**11月17日(日)**10:00~

日本映像民俗学の会共催「映像民俗学の先駆者たち-渋沢敬三と宮本馨太郎」の基調講演、に参加。※これについては添付の歴博の展示企画参照(末ページ以降)

16:30 解散。

---

〒160-0014 東京都新宿区内藤町 1-10 テラス小黒 302  
一般社団法人日本映像民俗学の会 電話：093-3352-2291  
Fax：03-3352-2293 メール：[info@jefs.org](mailto:info@jefs.org)  
代表：北村皆雄 事務局長：亘 純吉

## 開催予定の歴博フォーラム

### 歴博映像祭「映像民俗学の先駆者たち：渋沢敬三と宮本馨太郎」

#### 開催要項

日程	2013年11月17日(日)、20日(水)～24日(日)
場所	歴博講堂
定員	各日260名(先着順) ※事前申し込みは不要です。 ※定員を超えた場合ご入場できないことがあります。予めご了承ください。
参加費	無料
主催	国立歴史民俗博物館
共催	財団法人 宮本記念財団、神奈川大学日本常民文化研究所、公益財団法人 渋沢栄一記念財団 渋沢史料館、渋沢敬三記念事業実行委員会、一般社団法人 日本映像民俗学の会
協力	歴博友の会

#### 開催趣旨

映画を用いた民俗研究の先駆者として、渋沢敬三と宮本馨太郎に焦点をあて、民俗研究における映画制作、活用の意義について考えます。11月17日(日)の開幕講演会では、渋沢と宮本、アチックミュージアムの映画制作の時代背景やそれぞれの関係性について深い理解が得られる4つの講演が予定されています。20日(水)から24日(日)は5つのテーマで、計22作品を専門家の解説を交えて上映するほか、関連する講演、シンポジウムなども予定されています。

#### プログラム(内容は変更される場合があります)

11月17日(日)10:30～16:30 (開場 10:00)

## 〈映像祭〉開幕講演会

10:30	開会にあたって
10:35	館長挨拶
10:45	講演 1 「渋沢敬三のアチックミュージアムと宮本馨太郎の仕事」 宮本瑞夫(宮本記念財団)
12:00	休憩
13:00	講演 2 「渋沢敬三から見る動く映像」 岡田一男(下中記念財団/東京シネマ新社)
14:00	講演 3 「宮本馨太郎 昭和初期における郷土映画の構想」 北村皆雄(ヴィジュアルフォークロア)
15:00	講演 4 「渋沢敬三と宮本馨太郎は、映像をどう理解し、利用しようとしたのか」 原田健一(新潟大学)
16:00	質疑
司会: 内田順子(本館研究部)	

11月20日(水)13:00～16:30(開場 12:30)

### 特集 1: うみ・やま・かわの民俗

13:00	ごあいさつ
13:05	「八丈島の記録」(宮本:10分、1931年頃) 解説: 林 薫(八丈町教育委員会)
13:35	「霞ヶ浦のほとり」(宮本:3分、1931年頃か) 「霞ヶ浦にて」(宮本:10分、1935年) 解説: 榎陽介(福島県立博物館)
14:05	「昔時の運輸制度 伊那街道の中馬」(渋沢:18分、1931年) 解説: 櫻井弘人(飯田市美術博物館)

14:45	「谷浜桑取谷」(渋沢:19分、1935年) 解説:真野俊和(元筑波大学教授)
15:35	「片品川に沿うて」(宮本:15分、1930年) 解説:内田順子
16:05	「奥利根の流れ」(宮本:14分、1930年) 解説:内田順子
司会:青木隆浩(本館研究部)	

11月21日(木)13:00~16:10(開場 12:30)

### 特集2:暮らしと行事

13:00	ごあいさつ
13:05	「珍しい深田の田植」(宮本:3分、1936年) 「白萩村アワラ田植」(渋沢:8分、1936年) 「あわら田の田植え」(宮本:23分、1962年) 解説:西谷大(本館研究部)
14:05	「越後竹沢村と三面風景」(宮本:12分、1935年) 「古志郡竹沢村牛角突」(渋沢:12分、1935年) 解説:山田直巳(成城大学)
15:10	「渡辺小勝氏イタヤ細工」(渋沢:10分、1934年) 解説:成田敏(元青森県立郷土館学芸員)
15:40	「うちはこの出来るまで」(宮本:12分、1930年) 解説:内田順子
司会:川村清志(本館研究部)	

11月22日(金)13:00~16:00(開場 12:30)

### 特集 3: パイワン・オロッコ・ギリヤーク

13:00	ごあいさつ
13:05	「パイワン族の探訪記録」(渋沢:47分、1937年) 解説: 笠原政治(横浜国立大学名誉教授)
15:00	「オロッコ・ギリヤークの生活」(宮本:18分、1938年) 解説: 大塚和義(大阪学院大学)
司会: 内田順子	

11月23日(土)10:30~16:00(開場 10:00)

### 特集 4: 花祭

10:30	趣旨説明
10:40	「花祭(綱町邸)」(渋沢:18分、1930~1937年頃) 「花祭(三河北設楽郡)」(渋沢:13分、1929~1934年頃) 「花祭をたづねて」(宮本:12分、1930年) 解説: 小林光一郎(神奈川大学日本常民文化研究所)
12:00	休憩
13:00	「下粟代の花祭」(宮本:41分、1962年) 解説: 宮本瑞夫
14:00	「映像から読む花祭り」(北村皆雄編集、30分) 解説: 北村皆雄
15:00	講演「今、花祭の全記録に挑む—花祭の継承における映像記録の意義—」 佐々木重洋(名古屋大学)
15:50	質疑
司会: 内田順子	

11月24日(日)10:30~16:30(開場 10:00)



## 特集 5: 1930 年代の蔚山・多島海の民俗

10:30	趣旨説明
10:35	「朝鮮」(宮本:14分、1936年) 解説:李文雄(ソウル大学名誉教授)
11:10	「多島海探訪記」(渋沢:27分、1936年) 解説:崔吉城(広島大学名誉教授・東亜大学教授)・高光敏(島嶼文化研究院) 進行:北村皆雄
12:00	休憩
13:00	シンポジウム
13:05	講演1「アチックミュージアムのウルサンでの活動と現代」李文雄(ソウル大学名誉教授)
13:45	「多島海残照—1980年代—」(北村皆雄編集:15分) 解説:北村皆雄
14:05	講演2「多島海の現代」高光敏
15:00	講演3「記録と記憶」崔吉城
15:40	総合討論
司会:朝倉敏夫(国立民族学博物館) 総合司会:内田順子	

### お問い合わせ先

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地  
国立歴史民俗博物館 広報サービス室 広報・普及係  
TEL 043-486-0123 (代)